

平成 24 年度 “ 超 ” を目指す軸受技術研究会報告

“ 超 ” を目指す軸受技術研究会（第 3 種，主査 森 淳暢）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数 43 名，平均出席者数は 30 名程度で，同志社大学を開催場所とし，3 回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第 37 回研究会（平成 24 年 6 月 23 日 於：同志社大学） 軸受技術が鍵となるシステム及び技術課題（主査 森 淳暢）， 転がり軸受用ころの転動面および端面の最適形状設計に関する研究（NTN 藤原宏樹）， 多孔質材料を用いた LCD ガラス搬送用非接触浮上装置について（東大 津野洋明，TOTO 天野一貴，オイレス工業 平山琢哉，東京理科大 杉谷 啓，吉本成香）， 空気浮上式ガラス基盤搬送装置におけるガラス基板の浮上・変形特性（ジェイテクト 大岩尚樹，同志社大 平山朋子，松岡 敬，元京大・大阪電通大 矢部 寛）．

第 38 回研究会（平成 24 年 10 月 20 日 於：同志社大学） 反磁性のトライボロジー的応用（反磁性ガスシールと反磁性斥力を用いた非接触軸受）（関大 谷 弘詩，多川則男）． 風力発電装置用軸受およびグリースの技術動向（ジェイテクト 吉崎浩二）， 遠心ポンプの軸・軸受系のトライボロジー技術課題（西島製作所 野々垣 稔，兼森祐治）．

第 39 回研究会（平成 24 年 12 月 15 日 於：同志社大学） 傾斜した給気孔を有する超高速回転用気体軸受の開発（兵庫県立大 伊勢智彦，中野沙百合，JEOL RESONANCE 遠藤由宇生）， DFH 突出部に FIB 加工を施したスライダの軽荷重接触 HDI トライボロジーの研究（関大 富田 淳，谷 弘詞，小金沢新治，多川則男）， 弾性流体潤滑下での油膜厚さに及ぼすナノテクスチャリングの効果（同志社大 池田光孝，平山朋子，松岡 敬）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年 3～4 回の研究会の開催を予定している．